

甲府城の石垣



全景図

甲府城跡は、今から420年前の戦国時代の終わりごろに、豊臣秀吉の命令で築かれた城です。豊臣時代の野面積み石垣が今でもよい状態で残されており、城跡の一部は、県指定の史跡となっています。

今回、平成30年5月から7月6日までの期間で確認調査をおこなった山梨県民会館跡地付近は、かつては甲府城の追手門東側の内堀（一の堀）と内堀に面した石垣がありました。大正の終わりから昭和初期にかけて、石垣を取り壊し、また、内堀も埋め立てられました。が、今回の確認調査により、かつての石垣の根石（石垣の一番下に積まれた部分）が残っていることがわかりました。発見されたのは、垣の隅角部と呼ばれる石垣の角の部分で、根石の下には、石垣の沈下を防止するために設置された胴木も見つかっています。



発掘された根石と胴木

市川三郷町の水田跡

水田跡に残る足跡



新町前（しんまちまえ）遺跡は、市川三郷町市川大門地内にある遺跡です。平成30年4月から調査を開始して、これまでに15世紀頃の水田と用水路を発見しています。水田の耕作土には、水田を歩き回る人たちの足跡が数多く残されていました。また、水田の真ん中を流れる用水路には石積みの護岸があり、田に水を引き込むための取水口が完備されています。重たい石をたくさん集めて、積んで……。



用水路の遺構

かなり苦労したことでしょう。少しでも多くのお米が獲れるよう、当時の人たちがした苦労や工夫を目の当たりにしました。

新町前遺跡の発掘調査はまだまだ続きます。さて、今度は何が見つかるのか……

酒呑場遺跡の整理作業

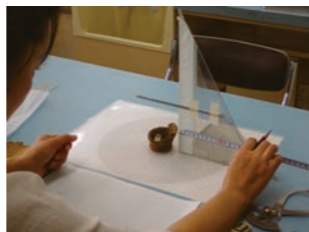


土器の接合の様子

北杜市長坂町に位置している酒呑場遺跡は、畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業のため平成29年5月から9月にかけて調査を行っていました。現在は報告書刊行に向けて、土器や石器の「接合」や「実測」等の本格的整理作業をしています。

「接合」は遺跡から出てきた土器や石器の破片を、接着剤で付ける作業です。土器の破片がないところは石膏を使い埋めていきます。

「実測」は土器や石器を図化する作業です。三角定規やディバイダーなどを使いながら細かく点を取っていきます。



実測の様子

このようにして土器を図面にしていくことで、歴史の資料となっていきます。

ぜひ、図書館などで報告書を手にとって見てください。作業員の皆さんが根気強く作業をした成果が、歴史資料となって詰まっています。

埋文やまなし 第57号

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

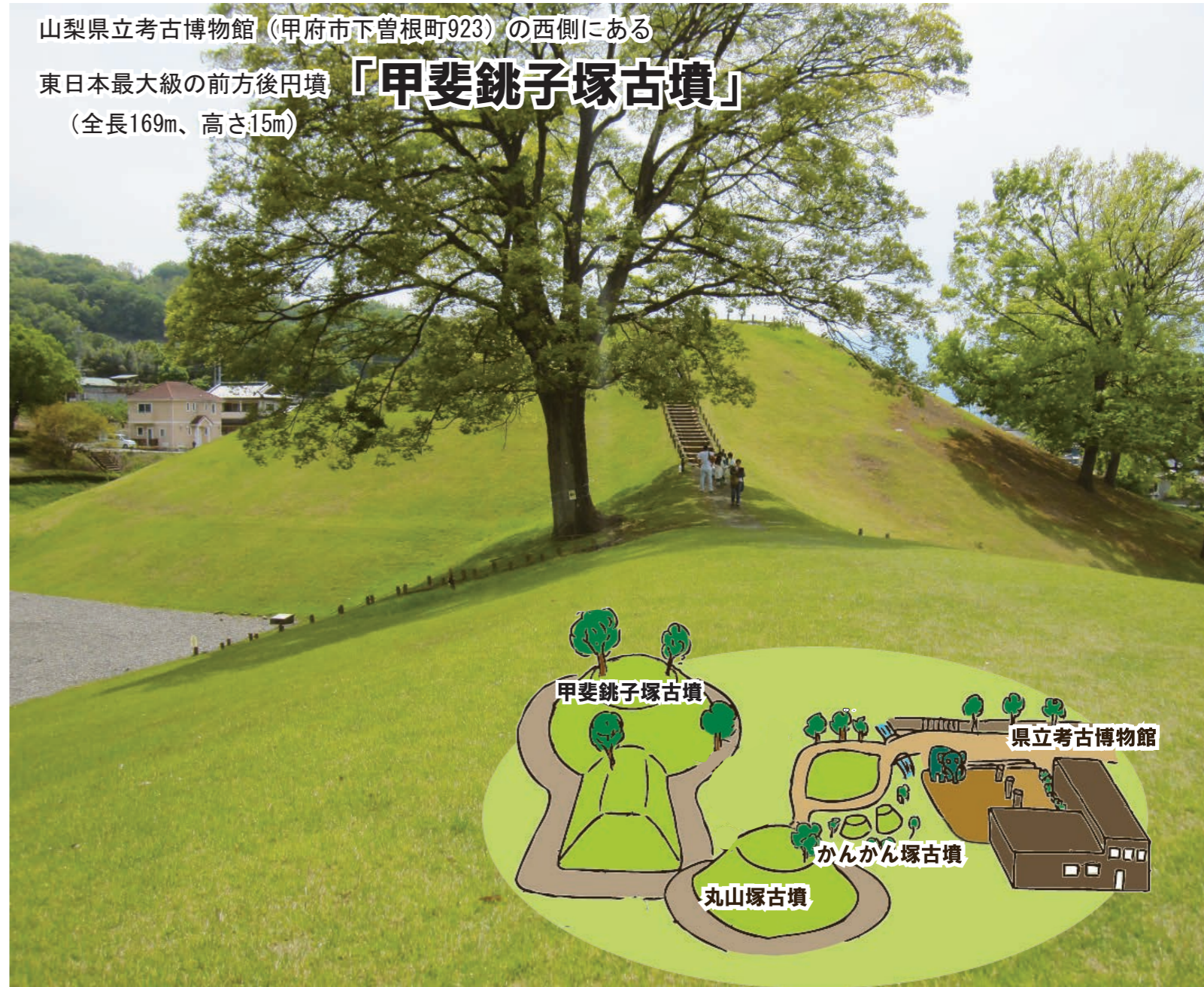
☎055-266-3016

印刷 株式会社峡南堂印刷所

山梨県立考古博物館（甲府市下曾根町923）の西側にある

東日本最大級の前方後円墳「甲斐銚子塚古墳」

（全長169m、高さ15m）



文化財の活用とイベント

甲斐銚子塚古墳をはじめとして、山梨県には、15の国指定史跡や29の県指定史跡など個性豊かな埋蔵文化財が沢山あります。また、埋蔵文化財センターには、これまでの遺跡の発掘調査によって2万箱以上の膨大な考古資料、記録保存されたさまざまな遺跡の報告書、それらをもとにした研究成果があります。

文化財保護法では、文化財の価値を損なうことなく後世に承継する「保存」とともに、より多くの人に鑑賞・体験してもらうこと等を通じて、県民の文化的活動や憩いの場の提供を行うなどの「活用」の双方を行うことが求められています。特に、近年においては、文化財の活用が地域振興や観光振興、ひいては地域創生にも資するとの認識が高まってきており、文化財の活用に期待される効果や役割が拡大しています。

埋蔵文化財センターでは、山梨県の文化財を広く知ってもらうために、様々な活用事業を行っており、今年5月3日から4日にかけて甲斐銚子塚古墳などを活用した子供向けのイベント「古墳で体験」を行いました。

祝！日本遺産認定



今年5月文化庁により、山梨県の6市と長野県にまたがる「星降る中部高地の縄文世界」が日本遺産として認定されました。日本遺産とは、地域に根差した文化財の魅力を高め、観光資源などに活用してもらうため2015年から認定されているものです。